

明治 17 年の百草村松連寺旧址

明治 17 年（1884）4 月 2 日の朝、南多摩郡長の原豊穰は、「谷合氏」の訪問を受けた。この谷合氏は特定が難しいが、おそらく、神奈川県会議員もつとめた谷合弥七か、漢詩人谷合南涯の息子谷合弥八のいずれかであると思われる。谷合の言うには、一昨日、農商務大輔の品川弥二郎が八王子に泊まり、つらつら話をする中に、百草村松連寺の旧地を買い受けることについて谷合に依頼があったので、調べてほしいというのである。これより数日前の 3 月 29 日、明治天皇が連光寺（多摩市）に兎狩に来ているので、品川もその関係で八王子へ立ち寄ったものであろうか。



原 豊穰

（『南多摩郡史』より）

その日（4 月 2 日）は地図や地券台帳などを取り調べて、翌朝早く、原豊穰は谷合や郡役所の書記と連れ立って松連寺の旧址へやって来た。

江戸後期には景勝地として知られた松連寺であったが、明治 6 年の廃仏毀釈で無住の寺となり、この頃にはすっかり荒廃していた。原は日記に「実ニ荒蕪シ大木モ多ク伐採シ、碑碣（石碑）迄モ活却（売却）シ旧本堂前ニアリシ大木ノ木犀両株ハ伐テ炭トナセシ由、門鐘等モ皆廉価ニ活却シタリ、歎スヘシ歎スヘシ」と感想を記している。

原は百草村戸長の白井庄蔵を呼び、この景勝地の保存についてどのように考えているかを問うたが、結局、有志の者に転売して回復策を講じるほかないと決まった。白井戸長はなお村民に諮った上で回答を決めることになった。

翌月には、この件についての相談でもあったものか、元松連寺の住職松井重次が原のもとを訪れている。だがその後、松連寺旧址買い取りの話は進展しなかったようである。百草村出身で横浜へ出て生糸商をしていた青木角蔵が、この旧址を買い取り遊園地として整備することが決まったのは明治 19 年 11 月のことであった。翌年 4 月「百草園」が開園し、この地は再び活気を取り戻したのだった。

（郷土資料館 矢口祥有里）

◎これは「広報ひの」平成 24 年 9 月 15 日号に掲載された記事の詳細版です。資料館にて印刷したのも配布しています。

（問）日野市郷土資料館（Tel 042-592-0981）